クロヒカゲモドキ　*Lethe marginalis* Motschulsky

【選定理由】

愛知県の本種は、1937 年 8 月 7 日に鳳来寺山から初めて採集され、1938 年に報告された。1951 年には旧額田郡宮崎村（現岡崎市）と北設楽郡設楽町から記録され、以後三河山地から点々と成虫や幼虫が発見された。近隣の岐阜県東濃地方や長野県木曾地方からも、最近の観察例が激減している。これは全国的な現象と考えられる。

【形　態】

前翅長、♂31、♀34mm のジャノメチョウ科。翅表は濃褐色、前翅の外半はやや淡色、後翅の外縁に沿って眼状紋が並ぶ。裏面は淡褐色で、前翅、後翅ともに外縁に眼状紋がある。近似種のクロヒカゲやヒカゲチョウに一見似るが、翅形が丸く、眼状紋が大きく目立つ。前翅の裏面の眼状紋は 3 個あり、このうち最も下の紋が最大であることから、クロヒカゲ、ヒカゲチョウと区別する。♂は♀に比し小型。

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県からの記録はすべて三河からで、尾張からの記録がない。既知産地は、岡崎市、豊田市、北設楽郡（東栄町、設楽町）、新城市など、比較的産地の報告は多い。岡崎市では分布も広く、得られた個体数も少なくない（高橋ほか, 1991）。近隣の岐阜県東濃地方では、産地の報告例が少なく、中津川市など東北部から記録されている。

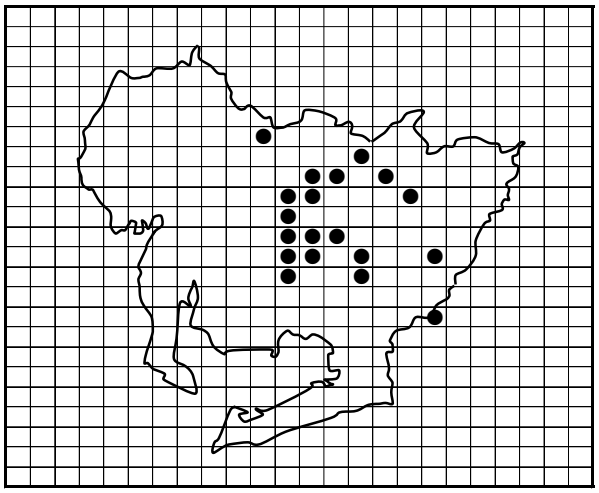
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布するが、東北地方からは最近の記録がない。いずれの産地でも局所的。

【世界の分布】

朝鮮半島から中国に産する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

愛知県では、山間の集落周辺の林縁や、谷筋の林道に沿った明るい疎林の周辺などに生息する。クロヒカゲが多産する暗い樹林内は好まない。飛び方はクロヒカゲよりも緩徐で、樹液、落花、獣糞、湿地に飛来する。花で吸蜜することはない。♂は夕方になると枝の先端に止まり、占有行動をとる。

年 1 回の発生、6 月下旬から発生し、9 月まで見られる。愛知県では 7～8 月の記録が多い。チヂミザサ、ススキほか多くのイネ科に産卵、幼虫はこれらの葉を食べる。4～5 齢幼虫で越冬し、翌春 6～7 齢に達し、蛹化、羽化する。

【現在の生息状況／減少の要因】

1990 年代に入り、野外で本種の成虫や幼虫をみかけることが激減した。年により発生の変動もあるらしい。里山の放置は本種の減少に拍車を掛けたものと思われる。減少の要因は愛知県のみならず、他府県でも明らかでない。

【保全上の留意点】

減少の要因が不明であり、根本的な対策を講じがたい。林縁や林床にススキなどの自生する環境は保全する必要がある。路傍の草刈、農薬の散布も注意を払うべきである。

【特記事項】

本種は長野県や山梨県では、キマダラモドキと混生しているところが多い。愛知県ではキマダラモドキは 1970 年東加茂郡旭町（現豊田市）で記録されている。

【引用文献】

高橋 昭ほか, 1991. 愛知県のチョウ類. 愛知県の昆虫, (下): 21-95. 愛知県.

【関連文献】

渡辺一雄, 1938. 鳳来寺山の八月の蝶. Zephyrus, 7 (4): 284.

（2009 年版を一部修正）